

# マドリーム通信

在スペイン日本国大使館付属

マドリッド日本人学校

文責 久保 俊博

平成28年11月2日 No. 8

## 「盲導犬～奇跡の瞬間～」

久保 俊博

先週、ふとしたきっかけでタイトルにある動画を見る機会がありました。



それは、オリバーという名の犬が、盲導犬として11年間の仕事を終え、パピーウォーカー（盲導犬候補の子犬を約10ヵ月間、家族の一員として迎えて

いただくボランティアのこと）のもとへ戻ってくるというお話です。

11年ぶりに戻ってくる犬を待っているその家の人たちは、自分たちのことを覚えてくれているか心配しています。そうこうしているうちに、盲導犬協会の人に連れられてきたオリバーは、その家の人たちを見るなり、走って近づき元飼い主に甘えます。その時のオリバーの顔は、視力を失った人の先に立ち、自らの欲求や自由を制御し、常に主人の安全を最優先に行動してきた盲導犬として顔ではありません。11年ぶりに再会し、喜びを素直に表現している一匹の老犬そのものです。



その後オリバーは、小さい頃を思い出したかのように、自分からその家に入っていきます。昔、手をかまれてもいいように使っていたスキー用の手袋をその家の人が出して見せると、一目散に走り寄り、その手袋を懸命に噛みながら、体いっぱい使って再会の喜びに浸っています。これからの残りの余生を楽しむかのように。



現在、世界各地では、民族間の憎しみからくる争いが後を絶ちませんが、この番組を一人でも多くの人が見て、オリバーから平和な世の中、生き物同士が信じあう喜びと尊さを、真剣に考えてほしいと思いました。

そして、ある本の中に書かれてあった「利己的なこの世の中で、人間がもつことができる最高に謙虚な友、情が厚く決して裏切らない友、それが犬だ。」という言葉が久しぶりに思い出しました。



## 11月の行事予定

1	火	諸聖人の日
2	水	給食
3	木	講師招聘学習（切り絵）
4	金	
5	土	
6	日	第2回漢字検定、第2回英語検定 2次試験
7	月	学校公開週間（10日まで）
8	火	
9	水	給食
10	木	
11	金	社会見学、部活動なし
12	土	
13	日	
14	月	
15	火	
16	水	給食
17	木	
18	金	部活動（小のみ）
19	土	
20	日	
21	月	
22	火	
23	水	
24	木	中学部期末テスト
25	金	中学部期末テスト、部活動
26	土	
27	日	バドミントン大会
28	月	
29	火	
30	水	給食

11月の生活目標:

落ち着いた生活をしよう。

## ホームページが新しくなりました!

本校のホームページが新しくなりました。もうすでに、ご覧になった保護者の皆様もいらっしゃるかもしれませんが、黄色を基調とした大変見やすい画面となっています。

何かいい情報などがありましたら、学校までご一報ください。児童生徒たちの学校生活も定期的に掲載しています。ご覧ください。



## 文化祭も無事終了!

10月16日、第20回の文化祭が、水上特命全権大使ご夫妻をはじめ、多くのご来賓の皆様や保護者の皆様にお越しいただき盛大に行われました。

今年のスローガンは、「やる気みなぎるマドリパワー〜笑顔・元気・団結」です。昨年度と異なる演目もあり、足を運んでいただいた皆様には、楽しんでいただいたのではないのでしょうか。

今回、改めて感じたのは、児童生徒たちの潜在能力の高さです。一人一人が多くセリフを覚えたり、やらなければならない仕事もあったと思いますが、見事にやり遂げました。また、普段の授業では見ることができない新たな一面を披露してくれた子供たちもいました。

一人でも多くの児童生徒たちが、この行事を通して自分に自信をもってくれたら…と思っています。



## 講師招聘学習「切り絵」

昨年度、お越しいただいた下村優介様をお招きし、今年も「切り絵教室」を開催することができるようになりました。下村様は大阪出身で、学生時代はラグビー選手として10年間を過ごした後、ラーメン屋を経て、2012年より完全独学で切り絵を始められました。今までに見たことのないオリジナルな切り絵を求め、制作に取り組んでいらっしゃいます。是非、この機会に保護者の皆様もご覧になってはいかがでしょうか？

ここに、すばらしい作品の一部をご紹介します。(下村優介氏のサイトより)



## バザーの収益金、ありがとうございます。

10月22日(土)、補習授業校が体育館でバザーを行いました。今年もそのバザー会場の一角をお借りして、日本人学校もバザーを行いました。

今年は、昨年より多くの商品が集まり、たくさんの皆様にご購入いただきました。その結果、多くの売り上げがあり、当日、バザー担当代表の重村様から収益金を受け取りました。

児童生徒たちにとって、有益な品物をご購入したいと思います。皆様、本当にありがとうございます。



## 教師のつぶやき

### 「私の初赴任地と、 そこから始まったいくつもの『絆』」

平方雅之

私は、自分が中学生くらいのころから、教員になることが夢でした。大学を卒業するとき、ちょうどバブル経済が崩壊。4回目の教員採用試験で、ようやく合格したのが実家のある神奈川県から遠く離れた北海道でした。しかも決まったのは、離島である奥尻町。1995年から働き始めましたが、その奥尻町は1993年7月に「北海道南西沖地震」に見舞われ、17m近く(4階ぐらいの高さ)の津波で小さい町ながら200名以上の死者・行方不明者を出した大災害があった場所でした。その大地震から、わずか1年半後の地へ働きに行くことに戸惑いもありましたが、念願の教員だったので、勇んで旅立ちました。

慣れない北海道離島での生活において、理想と現実はかけ離れており、最初の1、2年は本当に苦労しました。先輩の先生からは「教員をやめて東京に帰れ」とか、生徒から「キモイから近寄らないで」とか言われたこともあり、学生から社会人になった厳しさを感じましたが、とにかくやり切りました。その中学校で私が初担任した学級は、小さい町でしたので、幼稚園から中学校までずっと同じ学級で、クラス替えしたことがないようなクラスでした。なかなか大変なクラスだったのですが、卒業するまでには大きく成長し、生徒も先生も保護者も、みんな涙するような立派な卒業式をやって巣立っていきました。そんな彼らも今はもう、30代。就職し、結婚し元気に頑張っているようです。

以来、いくつもの学校を経て、いくつもの学級を担任し、今に至ります。その間、何百人、数千人の生徒と接してきました。そんな経験もできるのが、教員の良さだと思っています。このマドリも、今までに経験したことのない最高の学校の一つです。今ここにいる児童生徒も、今は一緒でも、いずれはそれぞれの人生は歩むはず。日本に帰れば各都道府県に分かれ、また日本やスペイン以外の国で生活を送る人もいるでしょう。しかし、このマドリで築いた『絆』をいつまでも忘れずに、平和で安心した、豊かな社会を築くために、ともに元気に歩んでいきたいです。